

ぽこ・あ・ぽこ

Poco a Poco イタリア語で「少しずつ」という意味です。

発行者
社会福祉法人 神戸婦人同協会 子供の家
〒661-0974 兵庫県尼崎市若王寺3-16-3
tel 06-6491-8853 fax 06-6498-3414
支援センター (tel, fax) 06 6491 1811
E-mail (子供の家) info@kodomonno-ie.org
(支援センター) pandy@kodomonno-ie.org
URL http://www.kodomonno-ie.org

第34号 平成15年12月10日 発行



タッチラグビークラブ

リトルキウイス全国大会へ

去る十一月二日に埼玉県熊谷市で開催されました第十三回全日本タッチラグビー大会に出場しました。

夜行列車で東京まで行き、その後新幹線で埼玉県熊谷市までの遠征でした。

予選を一勝一分で終え得失点差で決勝トーナメント進出が決まるという大変な結果になりました。しかし、得失点差一点で敗退となつてしまいました。

号泣する子どもたちもいて本当にタッチラグビーが好きで情熱を注いでいることが伝わりました。指導者としても熱く込み上げるものもあり、スポーツの素晴らしさを再確認しました。次回是非念願の全国制覇に向けて頑張りたいと思います。

大学進学決定

今年も高校三年生が大学への進学を希望しており、受験に向けて金銭的な面と学力面を両立すべく援助が行われてきました。十一月に入り推薦入試が開始されました。

今回進学を希望しているAくんは高校生活の中で身体障害者のスキューバダイビングをサポートしている団体でのボランティア活動など福祉活動もしており、将来は自分が育つた児童養護施設の職員になりたいということで、社会福祉を学べる四年制大学を目標にしました。

一校目は不合格になりましたが、二校目で無事に人間科学部社会福祉学科へ合格しました。

これからは、無事に高校を卒業することと、アルバイトをして進学のための資金を作ることをしていかなければなりません。まだまだ安心は出来ませんが、進路が見えたことで一安心です。

職員親睦旅行

職員親睦旅行が去る十月二十七、二十八日と十一月四日、五日の日程で二班に分かれて実施されました。

二年ぶりの再開で、親睦初参加の職員も多数います。今年には和歌山県・白浜に温泉と

観光の旅でした。白浜アドベンチャーワールドではイルカショーに二班二班とも親睦委員が選ばれイルカをジャンプさせたりしていました。いつも、忙しい勤務体制のため、なかなか交流を図ることができない職員たちですが大いに親睦を図ることができました。



第五回施設内学習会

職員と弁護士、学識者、大学院生とが一緒になり、児童福祉や児童養護施設のことを勉強する機会も今回で五回目となりました。

今回のテーマは十月に厚生労働省から出た「社会的養護のあり方に関する専門委員会」報告書について勉強をしました。

職員もよく内容は知らないと言ったので、その報告書を確認し、子供の家としてのように取り組むのかを考えました。

また、その具体的な取り組みとして実際の事例を検討し、依存症を抱える親と子ども家庭復帰と



第二回福祉施設交流会

在宅支援について検討しました。これによって、行政に働きかけることや施設として取り組むべき事など具体的な方策ができ、実際にマネージメントしていくこととなりました。

今回は、来年二月くらいを予定しています。

去る一月二二日に近隣にある尼崎あぜくら作業所（授産施設）の方たちとソフトボール大会をしました。試合は終始和気あいあいとしており、珍プレー、好プレーありといった感じでした。結果は十九対十八で辛くも子供のチームが逃げ切りました。

次回は春に予定されています。

今月の行事予定

子どもの行事予定

今月はクリスマスasmus月間です。子供の家では、十二月二日に「（株）かめいあんじゅー」さんがクリスマスケーキを贈呈してくださり、パーティが開催されました。

二三日は子供の家での恒例クリスマス会が開催されます。

また、子ども会のクリスマス会があり、この時期児童養護施設の子どもたちはサンタクロースとも到大忙しです。



新任職員奮戦記

玉元雅子 保育士

今月は、新任職員で半年がたった職員の新戦記です。

今まで生きてきた中で、一番時間が過ぎるのが早いと思えるほど、毎日が充実しすぎていて、半年の間に辞めたいと思うほどしんどい思いも抱えたけれど、それでも子ども達や周りの人たちに救われて、頑張つてこれた幸せだなあと実感しています。「趣味は仕事です！」と胸をはって言えそうな勢いです。子どもたちの抱える問題や、思いを受け止める事は思っていた以上につらく、大変な事ですが、子ども達が笑顔で安心して暮らせるならば苦にはならないと思わずにはいられません。入所してからの子どもの表情の変化には、施設職員の頑張りが表れているのとは感じます。子ども達はいつも真剣にぶつかってきます。だからこそ職員も毎日が真剣勝負です。



編集後記

近いうちに大きく児童養護施設が変化しそうな雰囲気です。「社会的養護のあり方」や「こどもを未来とするために」等々言われている施設入所児童の生活単位の小規模化や地域への子育て支援などが今後大きなポイントとなりそうです。

子供の家は小舎制という大部屋で数名のこどもたちが生活するスタイルをとっています。

国は、小舎制や地域小規模児童養護施設が中心となるようなシステムを構築したいようです。

子供の家でもこれから様々な創意工夫が必要になって来るは必至です。

私達は、建物等のハード面での変更は厳しいかもしれませんが、職員のマンパワーを使い創意工夫すること、地域支援やこどもたちの持つエンパワメントも活用しながら、自立促進や家庭復帰を目指して子どもたちをケアしていきたいと思えます。

